

身体障害者診断書・意見書（ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 13 歳以上用）

総括表

氏 名	大正・ 昭和・ 平成・ 令和 年 月 日生	男 女
住 所		
1 障害名（部位を明記）		
2 原因となった 疾病・外傷名		
交通, 労災, その他の事故, 戦傷, 戦災, 自然災害, 疾病, 先天性, その他 ()		
3 疾病・外傷発生年月日 昭和・平成・令和 年 月 日		
4 参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）		
障害固定又は障害確定（推定） 平成・令和 年 月 日		
5 総合所見		
[将来再認定 要・不要] (再認定の時期 年 月)		
6 その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。		
令和 年 月 日		
病院又は診療所の名称		
所 在 地		
診 療 担 当 科 名 科 医師氏名		
身体障害者福祉法第 15 条第 3 項の意見 [障害程度等級についても参考意見を記入]		
障害の程度は, 身体障害者福祉法別表に掲げる障害程度に		
・ 該当する (級相当)		
・ 該当しない		
※ 参考意見（等級）と判断した理由を, 記載してください。		
備考 1 障害名には現在起こっている障害, 例えば両眼視力障害, 両耳ろう, 右上下肢麻痺, 心臓機能障害等を記入し, 原因となつた疾病には, 緑内障, 先天性難聴, 脳卒中, 僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。		
2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については, 「歯科医師による診断書・意見書」(別様式) を添付してください。		
3 障害区分や等級決定のため, 広島県社会福祉審議会から改めてお問い合わせする場合があります。		

ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害の状況及び所見(13歳以上用)

1 HIV感染確認日及びその確認方法

HIV感染を確認した日 令和 年 月 日

(1)及び(2)の検査((2)については、いずれか一つの検査)による確認が必要である。

(1) HIVの抗体スクリーニング検査法の結果

	検査法	検査日	検査結果
判定結果		令和 年 月 日	陽性・陰性

注 酸素抗体法(ELISA)、粒子凝集法(PA)、免疫クロマトグラフィー法(IC)等のうち一つを行うこと。

(2) 抗体確認検査又はHIV病原検査の結果

	検査名	検査日	検査結果
抗体確認検査の結果		令和 年 月 日	陽性・陰性
HIV病原検査の結果		令和 年 月 日	陽性・陰性

注1 抗体確認検査とは、Western Blot法、蛍光抗体法(IFA)等の検査をいう。

2 HIV病原検査とは、HIV抗原検査、ウイルス分離、PCR法等の検査をいう。

2 エイズ発症の状況

HIVに感染していて、エイズを発症している者の場合は、次に記載すること。

指標疾患とその診断根拠	
-------------	--

注 指標疾患とは、「サーベイランスのためのHIV感染症/AIDS診断基準」(厚生省エイズ動向委員会、1999)に規定するものをいう。

回復不能なエイズ合併症のため介助なしでの日常生活	不 能 ・ 可 能
--------------------------	-----------

3 CD4陽性Tリンパ球数(／ μ l)

検査日	検査値	平均値
令和 年 月 日	／ μ l	
令和 年 月 日	／ μ l	／ μ l

注 左表には、4週間以上間隔をおいて実施した連続する2回の検査値を記載し、右表にはその平均値を記載すること。

4 検査所見，日常生活活動制限の状況

(1) 検査所見

検査日	令和 年 月 日	令和 年 月 日
白血球数	/ μ l	/ μ l

検査日	令和 年 月 日	令和 年 月 日
Hb量	g/dl	g/dl

検査日	令和 年 月 日	令和 年 月 日
血小板数	/ μ l	μ l

検査日	令和 年 月 日	令和 年 月 日
HIV-RNA量	copy/ml	copy/ml

注 4週間以上の間隔をおいて実施した連続する2回以上の検査結果を記入すること。

検査所見の該当数 [個] ……①

(2) 日常生活活動制限の状況

以下の日常生活活動制限の有無について該当する方を○で囲むこと。

日常生活活動制限の内容	左欄の状況の有無
1日1時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び易疲労が月に7日以上ある	有 ・ 無
健常時に比し10%以上の体重減少がある	有 ・ 無
月に7日以上の上の不定の発熱(38℃以上)が2か月以上続く	有 ・ 無
1日に3回以上の泥状ないし水様下痢が月に7日以上ある	有 ・ 無
1日に2回以上の嘔吐あるいは30分以上の嘔気が月に7日以上ある	有 ・ 無
「等級表解説」6ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害(1)のアの(ア)のjに示す日和見感染症の既往がある	有 ・ 無
生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限が必要である	有 ・ 無
軽作業を超える作業の回避が必要である	有 ・ 無
日常生活活動制限の数 [個] ……②	

注1 「生鮮食料品の摂取禁止」の他に、「生水の摂取禁止」，「脂質の摂取制限」，「長期にわたる密な治療」，「厳密な服薬管理」，「人混みの回避」が同等の制限に該当するものであること。

2 「日常生活活動制限の数」の欄には「有」を○で囲んだ合計数を記載する。

(3) 検査所見及び日常生活活動制限等の該当数

回復不能なエイズ合併症のため介助なしでの日常生活	不能 ・ 可能
CD4陽性Tリンパ球数の平均値 (/ μ l)	/ μ l
検査所見の該当数 (①)	個
日常生活活動制限の該当数 (②)	個

注 用紙の大きさは、日本工業規格 A 列 4 とする。